

第		20		回						
住	民	の	自	治	・	統	治	研	究	会
ご		あ		ん		な		い		

## 文献講読(その1)-仁平典宏著-「ボランティア」の誕生と終焉

＜贈与のパラドックス＞の知識社会学-第1部(名古屋大学出版会)

と き:2013年7月27日(土)午後1時30分～4時

ところ:大阪自治体問題研究所会議室

本書は、「ボランティアとは何か、どういう価値があるか」について、これまで人々は何を語ってきたか、に注目する。第I部、第1章「ボランティア」のささやかな誕生～第4章 分出する「ボランティア」を講読します。

### 前回 2013.6.8 研究会の報告

西成・釜ヶ崎現地研究会総括-大阪発地域再生プラン研究会での2本の報告から

#### 1) 自治の経験としての西成特区構想～釜ヶ崎地域での団体ヒアリング調査から考える - 報告 栗本

①これまでのヒアリング団体の特徴を押さえ、地域への認識と系列を超えたネットワークの登場、及び西成特区構想までの歴史的経過をたどり、まちづくりの提案が可能となった(仮称)萩之茶屋まちづくり拡大会議、釜ヶ崎まち再生フォーラムの役割を位置付けた。

②その上で、特区構想に対して、拡大会議やフォーラムが警戒しながらも一方でチャンスであると考え、特区構想有識者座談会報告にこれまでの活動を反映させた。

③反映させる動機として、地域構造の変化(生活保護世帯の増加、日雇労働者の高齢化と減少、児童数の減少とこどもの貧困、一方で、外国人バックパッカーの増加)、簡易宿泊所と商店街の減少に見られる地域経済の衰退には、個別対応ではなくまちづくりの取組みが必要という共通認識があった。

④残された課題⇒団体の連携には偏りがあり、行政との縦割りの関係が強く、運営と組織に余裕がない。その状況の下で具体的な取組みとして議論の場や計画の策定にどのようにつなげ、成功体験を生み出していくのか。さらに、区への分権はプラスに働くか、中間支援組織の必要性などの課題もある。

#### 2) 活動団体の蓄積・有識者座談会報告と西成特区構想の距離感 - 報告 佃

①特区構想の2013年度予算を見る限り、対象を釜ヶ崎/あいりん地域を含む西成区とし、生活保護の適正化を含め、有識者座談会報告書提案に応えた形をとる、西成区、区長、プロジェクトチーム、予算の姿は、玉石混交と捉えられる。短期集中的対策にはあいりん地域に該当するものが多いが、地元関係者、活動団体の意向を反映したものになっているかは、政策立案や推進の協議機関の設置がはっきりしないもとで、特区構想に名を借りた市主導の見直し作業になる恐れがある。

②2013年度の調査、検討結果から特区構想の予算が別枠となるかは不明だが、市による公的な手続きが必要である。市もしくは区策定の特区構想としてまとめ、議会の承認等の手続きを受けないかぎり、現在の報告書も特区構想も市政の中で担保されたものとは言えない。

③最近の橋下市長の動向を見ると市政運営にどれほど力を注いでいくのか疑問があるし、特区構想の推進も同様である。トップダウンから始まったものはトップの熱意が失われたら急速に弱まっていくことが想像される。20年先、いや5年先の特区構想期末まで特区構想が継承されていくかは疑問が残る。逆に、特区構想に名を借りた見直しの弊害が残ってしまうことが危惧される。

【出された主な意見】①有識者座談会報告を取りまとめた住民や団体の活動を市区の地域内分権のモデルとして喧伝されないか。②特区構想とはスラム解消政策ではないか。③大阪都構想では特別扱いは困難となる。

#### ◆第21回研究会 2013年8月下旬土曜日予定、13時30分～、大阪自治体問題研究所会議室 文献講読(その2) 仁平典宏著「ボランティア」の誕生と終焉(贈与のパラドックス)の知識社会学-第II部

当研究会は自主研究会ですので、参加者には資料代1回=500円の負担の協力をお願いしています。

主催=住民の自治・統治研究会 (06-6354-7220)